

ゆうかり放送委員会提供
ゆうかりに乾杯
第97回放送の概要（2015年5月30日放送）

パーソナリティ

さくら（安本久美子）
たろう（佃 由晃）
なか（中嶋邦弘）
かりん（妹尾優香）
あな（岸本幸恵）



ミキサー

門ちゃん（門田成延）

相談役

わだかん（和田幹司）

会計

小山俊則

（CM）神戸を代表する本格中華料理の名店、神仙閣神戸店は、昭和9年の創業から今もなお、神戸の地で愛され続けており、繊細な味わいと中華の伝統スタイルを継承しながら、華やかな北京料理を提供させていただいています。

兵庫高校OBの武陽会及び49陽会の皆さんも、神仙閣神戸店で、同窓会、披露宴は勿論、クラス会、祝勝会などの会合に是非ご利用ください。

ご予約は神仙閣 神戸店 電話050-5789-6080までお願い致します。

1. ゲストコーナー（1）：バックパッカー栗原伸行さん、宮本陽子さん

バックパッカーとは、旅行会社が組んだツアーと一緒に旅行をするのではなく、一人又は少人数でリュックサックを背負ったスタイルで、低予算で旅行することで、観光地というより自分の興味で旅を進めること。リュックは背中だけでなく前後に背負う人もいる。

栗原さんがバックパッカーを始めたきっかけは、普通は学生が始めるが、栗原さんは30代後半に自分を見直したいと思い始めた。初めはたまたま仕事で海外（台湾）に行くことになり、これはチャンスと考えた。一度行くと別の国にも行けると考え、仕事はなくても自分で行こうと思った事がきっかけである。通常の海外旅行からバックパッカーに変わったのは、最初ベトナム、カンボジア、タイに行き、色んな本、ハードな旅をしている人の紀行記を読むようになり、憧れを持ち、旅をするようになった。宮本さんの場合は普通の旅もしていたが、辺鄙な所にも行ってみたいと思うようになりバックパッカーを始めた（27歳の時）。女性としてバックパッカーとして旅をする事についての心配はなかった。

栗原さん、宮本さん二人で廻ったユーラシア大陸について、コースを選んだのは、当初は1年間の旅行を考えたが、東南アジアから西に向けて行くコース、ロシアからシベリア鉄道コース、中国から西アジア（シルクロード）経路を考え、季節が夏であったのでシベリア鉄道コースを選んだ。実際の期間は8カ月で、境港から船で韓国の東海、ウラジオストック、シベリア鉄道でモスクワ、エストニア、北欧、デンマークからドイツ、ポーランド、チェコ、オーストリア、南欧、モロッコ、スペイン、イタリア、ユーゴスラビア、トルコ、シリア、イスラエル、ヨルダン、イラク、インド、マレーシア、タイ、フィリピンを廻って日本に帰って来た。

スペインはそれまでも訪問しており、気候、食事も良いので旅のレベルとしては楽で楽しい国である。ヨーロッパは国境の感覚があまりなく、パスポートを提示することは殆どなかった。中東アジアな

どの国については、トルコは親日で料理もおいしく、シリア、イスラエル、イランなどは怖いイメージはあったが、生活している人は非常に親切で、食べ物を奢ってくれたり、バスと一緒に乗ってバス代を払ってくれたり、日本人の方が所得は高いと思うがそのような事は全く気にせず、歓迎し迎え入れてくれた。危険というよりフレンドリーな感じであった。道がわからない時は30分でも一緒に歩いてくれた。イスラム圏は普通はお酒がないので、店に行ってお酒はないか、お酒はないかと聞いて廻っていると、そのうち教えてくれる人が出てくる。30分以上露地を抜けて歩き、酒屋を教えてくれた。そこはイスラム自治区ではなく、キリスト自治区で酒の販売が許されていた場所であった。そのような場所に時間をかけて見ず知らずの外国人を連れて行ってくれた。栗原さんは土地の人と会話は出来ないが、単語だけを連呼していると通じてしまう。バスに乗る時も、行く先の地名だけを文法を考えずに言い続けると、運転手や周りの人がこちらのバスに乗れと言ってくれる。発音が正しいかわからないが、案外通じるものである。英語の発音を流暢にしようとするとかえって間違いを起こす場合がある。

現地で行く先を決める際は、宮本さんと話し合っていて決めている。スペインから当初イタリアに行こうとしていたが、栗原さんはモロッコに行きたいと思ったが、宮本さんは砂漠は怖いので行きたくないと言った。宮本さんにモロッコについて調べるように頼み、結局西サハラ砂漠に行くことになった。

旅行した当時は各国の政情は安定していたが、帰国数カ月後にジャスミン革命、アラブの春が起り、内戦状態になった。当時発生したトラブルは、モスクワからエストニアに電車で出国しようとした時、国境を超える時間がわかっていなかったため、1日（数時間分）ビザが足りなくなり、車内のパスポートチェックでモスクワに引き返された。モスクワ駅で一晩過ごし、不法滞在の状態だったので、翌朝日本に電話でかけあったり、ロシアの旅行社の人に助けられながら、わび状をロシア語で書いてもらい、空港にある外務省窓口で1日だけのビザをもらい出国できた。

バックパッカーを今後したいと思う人に対するアドバイスは、トラベルの語源はトラブルということを知ったことがあるが、常に危ないと思っている必要はあるが、そればかりであると旅は面白くない。その人が安心出来る人かを目利きし、ちょっと飛び込んでみるのが重要である。油断してではなく1歩1歩詰め寄るように、すぐに逃げられるようにという気持ちを持ちながら、少しずつ相手に対して心を解いていくことが重要です。

宮本さんは、危ない目にあつたことはなく、イランで現地の女の子から、うちのモスクに来ないかと言われ、そこは男女が完全に分かれている世界で、半日ほど栗原さんと連絡を取らずにモスクにこもっていた。お祭りの時期でふるまいを受けた。親戚の家に行ったような感覚で十分楽しんだ。



宮本陽子さん 栗原伸行さん



イランのマリアン



シリア首都で 30 分以上かけて案内された酒屋



サハラ砂漠ツアー



シリアーパルミラ遺跡



セルビアの友好度

2. ミュージック：みあげてごらん夜の星を（森麻季）



3. ゲストコーナ（2）

バックパッカーで各国を廻って感じたことは、色々な文化に触れることが多く、その体験を基に、在留外国人が多い神戸で、色々な文化を体験できるのではないかと考えた。海外にいると日本の事、神戸の事が良くも悪くも見えてきた。海外でいろんな所でやさしくされたが、日本に帰り、自分が外国人に道を聞かれて 30 分一緒に歩くことが出来るかが課題であった。旧ユーゴスラビア界隈の親日の国セルビアでは、地図を広げただけで何人かが近づいてくるので、どういう教育を受けているのかなと考えてしまった。ガイドブックを開きながら坂道を登っていくと、息を弾ませながら追っかけてくる人がおり、どこに行きたいんだと聞いてくる。英語が話せる自信があるから聞いてくるようだ。日本人は外国人に対し、ちゃんと喋らないといけない思い、外国人と話すことをちゅうちょするくらいがある。現地の人には言葉がわからない、恥ずかしいではなく、困っている人がいるからという気持ちが先に出るようだ。

そのような体験を踏まえて神戸で取り組んでいる事は、道を尋ねられた時は目的地まで連れて行くなど、親切に対応する事を心掛けています。英語が得意ではないので連れて行く方が早いし、日本人は親切と思ってもらえる。目的地到着まで会話は殆どないが、海外でヒッチハイクした時と同じで、車の中で

は無言であった。

活動としては神戸市内のツアーを行っている。在留外国人が多いので、海外の文化を感じられるような旅に絡んだツアーで、文化が強く出る宗教と食に焦点を当てた。それらが感じられる場所として、神戸市民もあまり知らないインドのシク教、ターバンを巻いているのはシク教の人、インドはヒンズー教が一番多く、シク教は少ない。その寺院は中央区野崎通にあり、日本では東京にもう1ヶ所ある。東京はビル内にあるが、単独で建っているのは神戸。インドのジャイナ教のお寺は北の坂の上にあり、神戸に唯一存在し、インドから運んだ総大理石で作られている。その西に行くとユダヤ教の寺院がある。イスラム教の寺院（神戸回教寺院（ムスリム・モスク）は中央区中山手通にある。また、長田区にはベトナム寺がある。見て回るだけの所もあるが、お祈りを見させてもらったり、礼拝に参加する場合もある。シク教では男女が分かれ、何十人ものシク教の人々の中に、少人数の日本人がアウエイ感を感じることで旅気分を感じる。南京町や異人館もいいが、外国に来た気分は感じられない。インドのお香の匂いなどから、五感が外国気分を感じさせてくれる。その後お振舞いがあり、インド料理を食べさせて頂ける。



シク教寺院



シク教寺院内部



ジャイナ教寺院



ユダヤ教寺院



イスラム教寺院

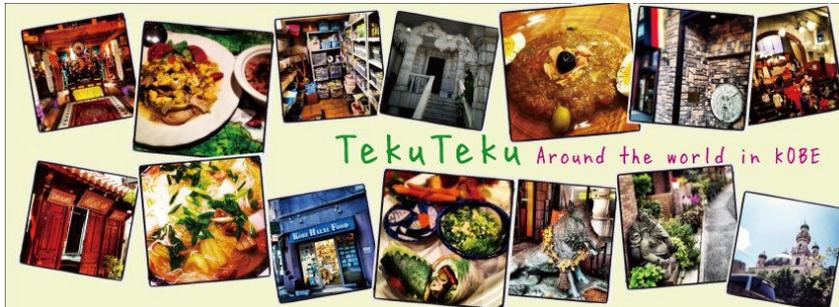


ベトナム寺

このようなツアーへの参加はどなたでも受け入れます。通常は Facebook（神戸で世界一周旅行社てくてく）で告知している。

<https://www.facebook.com/teku2kobe>

募集人数はアウェイ感を大事にしたいので、最大で 15 人程度。問い合わせは、「みんなの神戸アート」で検索し、「ご意見、ご要望」よりお願いします。<http://kobeart.net/>



facebook 神戸で世界一周旅行社てくてく

バックパッカーの旅を若い人にも知ってもらいたいので、帰国後すぐに電子書籍フリーペーパー「Brali」<http://brali.net/> を隔月に発行している。ネットを使い多くの人から紀行文を寄せてもらい、編集し一冊にまとめ上げて発行している。

また facebook「Brali」<https://www.facebook.com/Bralimagazine> もあります。



Brali

バックパッカー専門の転職サイト「Brali Job」<http://job.brali.net/> を立ち上げた。知り合ったバックパッカーと何故旅に出ないのかについて話をすると、①お金がない、②時間がない、③長期旅行をすると帰国すると仕事がない、である。長期旅行をするためには帰国後の仕事を確保する必要があり、バックパッカーだけを集める求人サイトを立ち上げ、バックパッカーを必要とする事業主だけが求人広告を出せるようにした。

バックパッカー専門の転職サイト
Brali Job

新開地にあるゲストハウス「ユメノマド (YUMENOMADO)」は、バックパッカーが寝泊まりする所で、9割は外国人。国内ではこのような施設は大変増えているが神戸は全く増えていない。バックパッカーは下町で庶民的スタイルを共有出来るので、三宮のような場所より新開地のような場所での宿泊が好まれる。地元では、周辺の食べ物店に外国人が来るようになったので喜んでいる。

栗原さんは更にユニークなツアー「神戸ナイトピクニック」を開催している。商店街で各商店の惣菜を購入し持ち寄り、その商店街でゲリラ的に立ち飲み会を行うもの。始めた理由は迷惑かけず、商店街主体ではなく消費者の立場で楽しみたいからだそうです。

4. こぼれた話こぼれなかった話：「ぼうさい甲子園」受賞校から見える取組みの地域傾向

- (1) 今年も第10回「1.17 防災未来賞“ぼうさい甲子園”」という全国の防災に取り組んだ優秀な小中高大などの取組みについて、1月11日（日）に表彰式・発表会を行われました
- (2) 「ぼうさい大賞」のグランプリは、和歌山県田辺市立新庄中学校の教科に関連づけした防災学習毎週1時間実施に与えられました。他の大賞には、小学生有志での亀っ子防災隊活動で愛知県半田市立亀崎小学校、津波模型での津波出前講座100回の岩手県宮古工業高校機械科津波模型班が受賞しました。
- (3) 「優秀賞」には、児童活動による学校の東海大地震に備えを充実させた愛知県高浜市立翼小学校、避難場所の活用のため住民個別訪問調査による防災意識調査を実施した徳島県徳島市立津田中学校、津波から緊急避難への箇所・ルート整備を提案し進めた高知県立須崎工業高校、災害時要援護者への教材・授業開発と実践の静岡大学教育学部藤井研究室が受賞。
- (4) 「奨励賞」の小学生部門は、ぼうさい・観光マップを創った山口県の水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊、中学生部門は、高齢者の避難訓練へのお助け隊結成の石川県能登町立小木中学校。高校生部門は、地域の自主防災組織の認定までもらった取組みの秋田県立仁賀保高校BV会&助っ人、正しい知識の体得取組みの千葉県立東金特別支援学校。大学部門では、厳冬期の仮想避難所での課題確認と対策検討の日本赤十字北海道看護大学災害beatS研究会が受賞されました。
- (5) その他部門賞のほかに、「はばタン賞」で4校、「だいじょうぶ賞」2校、「津波ぼうさい賞」で3校、「教科アイデア賞」で2校、「継続こそ力賞」で2校、「フロンティア賞」で3校、「新入賞」1校表彰されました。
- (6) 最近の傾向を、部門賞を受賞される学校の地域、都道府県で見ると、北海道1、岩手6、宮城4、新潟2、秋田1、千葉4、石川2、静岡1、愛知3、兵庫0、京都1、和歌山2、山口2、徳島7、高知4です。兵庫の場合は数年前までは常連校でしたが、東日本大震災や中越沖大地震、能登大地震などの大震災の被災地や、東南海大地震など近未来襲来予想の地域に限定されているのではないかと、思います。全国都道府県各地で防災教育への取組みはなされていますが、「ぼうさい甲子園」にて表彰されるほど熱心に効果的に行われているかどうか、受賞だけから窺える、温度差を表しているようではありませんか。
- (7) 防災先進県としての兵庫県内の学校の再奮起を期待したいところですし、もっと問題なのは、東日本大震災でも思わぬ大きな影響を受けた首都圏、特に将来襲い来る首都圏大震災への防災実践に、地域単位、学校単位での効果的な取組みがなされているのか、大変心配されることです。千葉県のように、東京都、神奈川県和学校にも期待したいところです。

5. 地域瓦版

6月28日（日）、神戸市立地域人材センターで「新長田ゆるフェス」が開催されます。新長田を知らない人、新長田に住んでいる人に、素敵な時間を提供するというミッションの基に、神戸・関西を中心に活動するミュージシャンと新長田の美味しい物やお店が人材支援センターに集まり、弾き語りの音楽と新長田に集まった食材にこだわる、大人から子供まで楽しめるゆるい音楽フェスです。時間は12時～15時35分、料金は大人500円、高校生以下無料です。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>